

● 羅針塾のコンセプト

不確実な現代社会の羅針盤たる未来の指導者が集う

21世紀に入り新たな時代への期待が高まる中、激動する世界の力学に揺さぶられる不確実な現代社会を反映して、表層的な豊かさとは裏腹に社会の幸福感は低下していると言われて久しい。これまで信じられてきた医療制度や健康価値は揺らぎ、これから「社会の健康価値」は未だ見つかっていない。不確実な現代社会においては、新たな「価値(Value)」こそが、社会の幸福感の拠り所になるものである。我々が依って立つ社会は、今、何を求めているのだろうか。その解を模索し、潜在需要に応えうる「目利き(Evaluation)」の能力を持った羅針塾こそが、今後、求められているヒトやシステムの理想像に違いない。



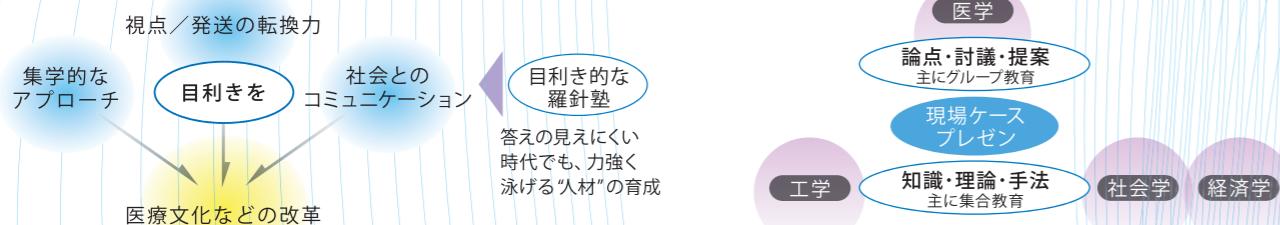
宮原秀夫
1943年生まれ。大阪大学工学研究科修了。コンピュータネットワークのモデル化と性能評価を学問領域として確立。大阪大学総長、情報通信研究機構理事長を経て、ナレッジキャピタル代表理事、臨床医工情報学コンソーシアム関西会長。

羅針塾塾長 宮原秀夫

● 目的・方法

現代社会の「目利き」の育成

社会全体の幸福度を上げる「新しい価値」を創造するために真価を見通し未来を見通す「目利き」を育成する。



● 会場

グランフロント大阪 ナレッジキャピタル
カンファレンスルーム B08
大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 タワーB 10階

会場へのアクセス

- ①JR「大阪駅」より徒歩3分
- ②地下鉄御堂筋線「梅田駅」より徒歩3分
- ③阪急「梅田駅」より徒歩3分

大阪駅中央北口アトリウム広場から直結の連絡デッキをご利用下さい

定員：25名程度

受講料：8万円(交流会費、昼食費含む)※宿泊費は含まれません



● お問い合わせ

事務局／臨床医工情報学 コンソーシアム関西
〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53 大阪大学中之島センター 6F
tel.06-6444-2144 fax.06-6444-2141

<http://www.rashin-juku.conso-kansai.or.jp/>
E-mail:sanka@conso-kansai.or.jp

羅針塾

vol.3

RASHINJUKU
Program for
Leadership
Development



社会の幸福感を増大させる
[新しい健康価値] を創造するために
いま未熟なもののがんを見通し
我が国の未来へつなげる
[目利き] を育成する

2014 1/18 sat 19 sun
グランフロント大阪
ナレッジキャピタル



なぜ「医療用ソフトウェア」なのか？

多様なソフトウェア／変わるべきビジネスモデル／新しい市場～広がる可能性・参入機会の到来～
一方で、『ヘルスケアソフトウェア産業に新規参入するにはどのような戦略が必要なのか?』など、新規分野である医療用ソフトウェアに関するビジネス戦略のデザインについての相談も急速に増えてきている。
医療用ソフトウェアの開発および市場への展開に必要なレギュレーションからビジネスモデルの設計および販売戦略など、新規産業としての医療用ソフトウェアに関する人材育成プログラムへの期待が高まっている。

本講座では、医療用ソフトウェアについての国内外の国際規格やガイドラインに関する最新情報、および政府機関、業界団体の動向を紹介し、医療用ソフトウェア産業の現状を理解していただき、その情報を参考に、医療用ソフトウェア産業における開発・ビジネスモデル設計・販売戦略構築ができる人材を育成するプログラムについての議論を行う。議論を通して、新規産業である医療用ソフトウェア産業をけん引する人材を育成する。

受講対象者

先行企業から新規参入企業まで、受講価値あるプログラムを実現

- 現在、医療用ソフトウェアの開発を行っている企業の経営者、法務関係者、開発担当者、品質管理者
- 教育機関の医療機器、医療用ソフトウェア開発・研究に携わっている研究者
- 業界団体の教育担当者、企画担当者
- 新規参入を考えているソフトウェア開発企業の経営者、法務関係者、開発担当者、品質管理者、企画担当者

4つの特徴

最新の動向をキャッチ

政府機関、業界団体からの講師陣による講義形式のプログラムで、医療用ソフトウェア産業の現状と最新動向について理解を深めることができる。

先行する企業の事例を紹介

すでにヘルスケア分野でソフトウェアを活用して参入している企業の事例を紹介。ビジネスアイデアの刺激を先行事例から取り入れる。

受講生同士の交流でつかむ新たなビジネスアイデア

交流会を活用した同じ医療用ソフトウェア産業に挑む受講生とのネットワーク作り。将来の情報交換に役立つ同志との繋がりを築く。

全員参加のディスカッションで業界の課題に挑む

医療用ソフトウェア開発のケーススタディを議論することで課題を洗い出し、ビジネスや技術等の様々な方面に議論を発展させ、さらには業界が求める教育プログラムについて考えることで、その解決方法に迫る。

プログラム概略

1日目 1/18(土) 受付 15:00~15:30 講義 15:30~17:45 交流会 18:00~19:30

15:00-15:05	開会挨拶	宮原秀夫（羅針塾塾長、コンソーシアム関西会長、元大阪大学総長）
15:05-15:20	スタートアップ	妙中義之（国立循環器病研究センター研究基盤センター・センター長、コンソーシアム関西理事 医療用ソフトウェアに関する研究会座長（経産省、厚労省、総務省連携））
15:20-15:50	医療用ソフトウェア議論の動向	中野壮陸（財団法人医療機器センター 医療機器産業研究所 主任研究員）
15:50-16:20	厚生労働省の医療機器ソフトウェアに関する取組みの方向性	安川孝志（厚生労働省医薬食品局審査管理課医療機器審査管理室・室長補佐）
16:30-17:00	医療用ソフトウェア産業の育成について	覚道崇文（経済産業省商務情報政策局 ヘルスケア産業課医療・福祉機器産業室長）
17:00-17:30	業界団体でのとりまとめ／検討している仕組み・運営等について	名波昌治（一般社団法人日本画像医療システム工業会（JIRA）産業戦略室専任部長）
17:30-17:45	クロージング	澤 芳樹（大阪大学臨床医工学融合研究教育センター・センター長、コンソーシアム関西理事）
18:00-19:30	交流会	

2日目 1/19(日) 受付 9:30~10:00 講義／ディスカッション 10:00~18:00

10:00-10:15	スタートアップ	楠岡英雄（国立病院機構大阪医療センター院長、コンソーシアム関西理事 医療機器開発ガイドライン事業 医療用ソフトウェアWG委員座長（経産省、厚労省連携））
10:15-10:45	医療用ソフトウェアに求められること	平井正明（一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）医療用ソフトウェア専門委員会委員長）
10:45-11:15	コンティニュア・ヘルス・アライアンスの取組み事例	大竹正規（コンティニュア・ヘルス・アライアンス日本地域政策分科会委員長）
11:15-11:45	医療用ソフトウェアに関する教育プログラムの検討	田中正夫（大阪大学大学院基礎工学研究科教授、コンソーシアム関西理事 大阪大学臨床医工学融合研究教育センター教育部門長）
12:45-17:45	特別企画～事例紹介＆ディスカッション～	
事例紹介	館 由里子（ソフトバンクモバイル株式会社プロダクト・サービス本部US商品戦略統括部 ビジネス開発室担当課長）	
事例紹介	酒井由夫（日本光電工業株式会社技術推進センター基本技術部専門課長 一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）医療用ソフトウェア専門委員会幹事）	
ディスカッション	グループディスカッション／全体ディスカッション	
17:45-18:00	修了式	西尾章治郎（大阪大学大学院情報科学研究科教授、コンソーシアム関西代表理事）

※講演者や講演時間など、プログラムは変更になる場合がございます。予めご了承ください。